

# 坂の上通信

令和二年一月二十三日  
広島市立美鈴が丘高等学校  
新聞文化部(四〇三演習室)

## 市総文 今年も盛況

### 西区民文化センターで開催

1月8日(水)から12日(日)まで、西区民文化センターで第32回市総文が開催された。市総文は広島市立高等学校総合文化祭の略称で、市立高等学校の



「アビスナイトメア～醒めない悪夢～」を熱演する演劇部

文化センターが中心となって開催される文化祭。展示部門とステージ部門に分かれ、例年各区の区民文化センターが会場となっている。美鈴からは演劇部、

放送部、吹奏楽部、美術部、書道部、華道部、新聞文化部が参加。展示は8日から12日、ステージは11日と12日の2日間で発表が行われた。

大広間や会議室、美術工芸室など、区民センターのほとんどの部屋が高校生の様々な作品で飾られ、一部の作品は廊下にも展示されていた。大広間では茶道部によるお茶会も開かれ、多くの来場者が笑顔を見せていた。

美鈴の各文化部も、6月の文化祭で展示した作品のほか、新作も多数出品していた。また写真部など美鈴にはない部活動の展示も見られ、全体が華やかな雰囲気になっていった。

最終日のステージでは、演劇部が『アビス』

「ナイトメア」を上演した。この作品は昨年の10月にノートルダム清心高等学校にて上演されたものと同じだが、よりよい作品になるよう磨きかけたものとなっていた。

登場人物は死神と4人の高校生。それぞれの視点に場面が変わったり、セリフに抑揚がつけられたりすることで、複雑な人間関係や抱えている思いを表現していた。自然な動きとはっきりとしたセリフで、4人の感情がリアルに感じられた。

公演後、2年5組の森上琴音さんと2年6組の古賀美優香さんにインタビューを行った。

公演を終えた感想は、全力でやりきりました。楽しかったです。特に力を入れたところはどこですか。

「明るい部分と暗い部分の差を表現すること。また、笑いの部分を自然に演じることがですね。1回目の公演は、4月の新入生歓迎公演です。また新たな気持ちで頑張ります。」

### 学校の「顔」にインタビュー



今回は、生物の平野先生にインタビューを行った。どんな高校生でしたか？

17時が門限の寮生活を送っていました。で

も、どちらかと言えばおてんば娘でした。教師になろうと思っ

たきっかけは。親が教師だったことが理由の一つです。あとは、自分の周りに公

務員関係の人が多かった。美高生に一言お願いします。

私にとって美高生はみんな孫のような感覚で、かわいくていい子たちばかりです。自分の力を信じて頑張ってください。



土日には特に大勢の人が鑑賞に訪れた



### 形容詞なまるまる

先生のお気に入りのメディアに形容詞をつけて紹介する「形容詞なまるまる」。	紹介者	公民・新宅先生
今回は、地歴公民科・新宅先生に	対象	動画
この「形容詞なまるまる」を聞いた。お題は	対象	動画

「懐かしい動画」だ。どんな動画ですか？ T-SQUAREという音楽グループの動画です。「フュージョン」というジャンルの曲を演奏しているバンドで、昔好きだった音楽グループです。フュージョンとは、ロックとジャズの2つが合わさっ

たような音楽のことを言います。どこに懐かしさを感じますか？ CDを無くしてしまいがけなくていいのですが、この前偶然YouTube上で再会しました。久しぶりに聞いたので、懐かしいなと感じました。



### 壊す人がいれば直す人がいる

業務の先生にインタビュー

学校では、毎月大掃除の時に安全点検を行います。何かあれば業務員の方に報告することになっていて、生徒棟3階のトイレのドア等に計3カ所の穴が見つかり、業務員の丹羽さんと大久保さんによって

修復された。状況から故意に破損した可能性もあり、現在修繕された場所には左のような紙が貼られている。

この件について、業務員のお二人にお話を伺った。どのような破損でしたか。一番大きい穴がテニスボールくらい、他二つはゴルフボールくらいの大きさでした。

「穴は「パテ」とよばれる粘土のようなもので埋めるのですが、粘土が乾燥して小さくなるため、同じ工程を数回行いました。何日かかりましたか。2〜3日ですね。

美高生に気をつけてほしいことは、やはり、ものを壊さないように大切に扱ってほしいですね。また、修繕は初期対応が大事です。部品が落ちていたり、扉が閉めにくかったり、何かおかしいと気づいたらすぐに知らせてもらえると助かります。

### 今年も全国へ

新聞文化部

昨年8月に「さが総文」に参加した美高新聞文化部が、今年も全国高等学校総合文化祭へ出場することが決定した。

「第4回広島県高等学校新聞コンクール」において美高と崇徳高校の2校が最優秀賞を受賞。優秀賞は呉三津田高校、奨励賞は近大附属広島高校福山校がそれぞれ受賞した。

この結果、美高・崇徳・呉三津田の3校は県推薦校として8月に高知で開催される全国総文(こうち総文)への参加資格を得た。



最優秀の賞状と楯

### 美・鈴・鈴・鈴

「縁の下の力持ち」という言葉をご存じだろうか。人の気づかないところで、他人のために支える苦労や努力、あるいはそれを人々を指すことわざだ。誰かが表舞台に立って活躍する影には、多くの場合支えてくれる人がいる。部活動で例えるなら、演劇部での裏方、運動部でのマネージャーも「縁の下の力持ち」だといえるだろう。▼今号では、業務員の方が日々損傷しているところを修繕して下さっている内容を記事にした。私たちが学校生活を送る上で不便のないように点検したり、必要があれば修繕して下さっている。その支えのおかげで、安全で不便のない生活ができています。▼ただし、支えがあっても当たり前だと思ってしまうのは勘違いではないだろうか。壊れたら直してくれる人がいる、というくらいの想像力は、高校生であれば身につけてほしいはずだ。物を大切にしようという最低限のマナーを、あらためて意識したい。(福田紫乃)

### 編集後記

市総文用に拡大したバックナンバーを1年生フロアに掲示しているのでご覧ください。